



平成25年度 八王子市立南大沢小学校経営計画

校長 菊池 春海

1. 学校経営の基本理念

「人間には、なぜ教育が必要なのか」それは、「人が、人として、人らしく生きるため」である。人間はこの世の中でもっとも優れた能力を持っている生き物である。人間は人間によってしか人間らしくすることはできないのである。人間は人間同士でお互いに助け合い、教え合い、学び合い、高め合う以外は、人間らしくなる道はない。これが学校教育の原点と考えている。教育基本法第一条では「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と目的を掲げている。

そこで、南大沢小学校教育のあり方を考えるとき、過去の教育を振り返り、見直すことが大切である。未来を見つめ、特色を探り、子供たちにどのような能力が必要であるか見通すことも重要である。このような視点から、教育の原点に立ち返り、教育のあり方を体系的に整理し、南大沢小学校教育の充実をめざしたい。その一歩として、学校が

- (1) 子供にとって伸び伸びと過ごせる楽しい場になっているか。
- (2) 子供が自分の興味・関心のあることにじっくりと取り組めるゆとりがあるか。
- (3) わかりやすい授業（感動のある授業）が展開されているか。
- (4) 子供同士、教職員と子供、教職員と保護者の信頼関係が確立しているか。
- (5) 地域の人々との連携や信頼関係が確立しているか。

という5点で見直すことから始めたい。

2. めざす学校像

29年間培われてきた校風・精神を大切にす。全職員の英知と力を結集して、子供たちに心豊かで、たくましい、生き抜く力を身につけさせ、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。

152名（39名のみずき学級）の子供たちが楽しそうに学校に通う姿は、保護者や教職員にとっても、地域の人々にとってもうれしいことである。仲の良い友だちがいて、魅力的な教職員がいて、通うことが楽しい学校でありたい。そのために、夢と目標に向かって、私たち一人ひとりががっちりとしてスクラムを組み、自信を持って日々の実践に励み、具現化に努める。

(1)「学ぶことがよくわかり、友だちと遊ぶのが楽しい」と子供が思う学校

- ・宝物である子供一人ひとりを丁寧に育てる。
～多くの教職員の目と心で子供を育てる～
- ・きめ細かな学習指導と生活指導の徹底を図るために少人数指導をすすめる。
～TT指導・課題別指導等を進める～
- ・サポーターや学生ボランティア等を活用する。

(2)「子供を南小に通わせて良かった」と保護者が思う学校

- ・子供の教育について保護者とともに考える。（共感・共育・協育）
- ・子供に開き、保護者に開き、地域に開く。
（学校公開・学校評議員・教育アンケート・地域運営学校）

(3)「自分の持ち味が発揮でき、やりがいがある」と教職員が誇れる学校

- ・一人ひとりの教職員が、個性を生かし、協働する。
～ネットワーク・フットワーク・ネットワーク・チームワーク～
- ・教師は自らを向上させようと努力する。そのために自己研修と共同研究を大切にする。
～創意工夫・地道な実践・工夫をした授業づくり・学級づくり・自分づくり～

(4)「南小」と地域の人々が誇れる学校

- ・地域運営学校として地域と学校がともに歩み子供を育てる。
- ・地域は教材の宝庫であり、人材、文化財、自然環境の活用をする。
- ・地域と連携して、子供の有意義な学習のために環境整備に努める。

3. めざす子供像

本校では、人間尊重の精神に基づき、自ら考え主体的に判断し、行動する力を養うとともに、社会性と国際的視野を身に付けた、心身ともに調和のとれた児童の育成をめざして、

- | | | |
|-------|-------|---------------|
| ・仲よく | ----- | 温かい人間関係を作れる子供 |
| ・元気で | ----- | 気力・体力のある子供 |
| ・頑張る子 | ----- | 意欲・知恵のある子供 |

と設定している。それに近づく創意工夫をしたい。

4. めざす教師像

自分の持ち味が発揮でき、やりがいある学校にするためには、自己研鑽に励み、そして子供に向き合うことである。それが子供・教職員・保護者・地域の人々から信頼される教師になる。子供たちは、「授業を丁寧に教えてくれる先生」

「一人ひとりの子供を大事にしてくれる先生」

「悪いことをしたら本気になってしかってくれる先生」

「ユーモアに富む先生」

「いつも教室を明るくしてくれる先生」

「友達を大切にしなさいと教えてくれる先生」

とと思っている。授業づくり・学級づくり・自分づくりを進める担い手は教師であり、学校が変わるためには教師自身の変革が不可欠である。そのために

「授業で勝負する教師」

「子供に寄り添い、夢を育む教師」

「保護者や地域の人々の期待に応え、信頼される教師」

「仕事にやりがいと誇りをもち、自己責任を果たす教師」

でありたい。自らの教育実践を通して初めて教師自身の変革が可能になる。

5. 居場所のある学校づくり

大規模校であった南小は、昨年度より全学年が単学級になった。小規模校は、①個に応じたきめ細かな学習指導ができる。②個々の児童の活躍の場を多く設定することができる。③学級担任と児童とが互いに深く結ばれており、安定した教室の雰囲気の中で学ぶことができる。などの強みがある。一方、弱みとして①多様な考えや意見を出し合い、互いに学び合うという経験がしづらい。②互いの評価が固定されやすく、競争心や向上心が育ちにくい。③集団での学習活動が必要な体育・音楽・特別活動などで、効果的な学習を組織しづらい。などがある。強みをより生かし、弱みを意図的に改善することで教育目標とする子供像に近づくことが可能である。

小学校学習指導要領解説総則編（第5節教育課程実施上の配慮事項3）に「分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は児童にとって苦痛であり、児童の劣等意識を助長し、情緒の不安定をもたらし、様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる。」とある。本来、学校は子供たちにとって安心できる場、たくさんの人とのかかわりを通して、子供たちが成長する場、一人ひとりに合った学びの場でなければならない。子供たちは、仲間と共に学び、育ち合う中で、自分や他人の価値観の違いに気づき葛藤しながら成長していく。子供一人ひとりの多様性を受け入れ、尊重すると同時に、ある子どもにとって学びやすくなるような工夫は、他の子供たちの学びやすさにもつながる。つまり学校にいるすべての子供たちが、安心、安全に生活し、居心地のよい、自分の居場所がある学校にしていきたいと考える。それが授業・学級・環境・学校づくりになると確信している。第一歩の本年度は「ユニバーサルデザインとは何か」などの根本を学ぶことからはじめ、本校で何をやっていくかの話し合いを続けていく。

24年度の学校経営目標は、

- (1) 一人ひとりの子供に応じた学力・体力を身に付けさせる
- (2) 広い視野を持ち、温かい人間関係をつくれる豊かな心を育む
- (3) 地域とともに歩むとする。

I 学校の経営

今年度の重点と方策	検 証	結果と改善
1. 一人ひとりの子供に応じた学力・体力を身につけさせる教育		
<p>(1)基礎・基本の確実な定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶少人数指導等で個に応じたきめ細やかな授業をすすめる。 ▶自学（宿題）をすすめる ▶評価の改善を図る ▶人材バンクの活用を図る <p>(2)基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶体力・運動能力等の調査実施 ▶体力向上の計画 ▶基本的生活習慣の確立 <p>(3)校内研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶全員授業を見せ合い、話し合い、高め合う ▶計画的に地道な実践 ▶OJT（on-the-job training）の活用 <p>(4)特別支援教育の充実</p> <p>①ユニバーサルデザインによる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶授業・学級・環境・学校づくり わかりやすい授業、考える過程を重視、自尊心高める、居場所がある ▶意識の共有化 特別支援の考え方を取り入れる、教育の質の向上、教師同士のつながり ▶支援体制づくり 体制づくり、担任へのバックアップ、個別支援計画作成、外部人材の活用・打合せ ▶学校全体の取り組み 心のよりどころになる居場所（南小ルーム等）、個別ポートフォリオ作成 ▶保護者・地域との連携 保護者への啓発、人材育成、地域とつながる組織（地域運営学校） <p>②みずき学級の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶指導・相談の充実 個別指導計画による指導、校外の支援・協力、保護者・在籍校との連携、地域ブロックの相談窓口 ▶指導方法・内容 PDCA による授業改善、事例研究を充実、体育的授業の充実 ▶学習環境の整備 美しい教室、美しい色彩、見やすい板書、視覚化 	<p>(1)各種調査の「書くこと」「読むこと」「数と計算」の目標値を超えるようにする。また、保護者の学校教育に関するアンケートで「基礎・基本の学習内容を身に付けている」と「家庭学習を進めている」の肯定的評価を85%以上にする。</p> <p>(2)24年度の体力・運動能力等の調査結果「立ち幅とび」「上体起こし」「ソフトボール投げ」など低い傾向にあり、日常の授業で工夫をして体力向上を図る。</p> <p>(3)子供のために全員が授業を見せ合い、話し合い、高め合いをして授業力の向上を図る。また、教職員の学校教育に関するアンケートで「指導方法の工夫・改善に努めた」の肯定的評価を90%以上にする。</p> <p>(4)特別支援教育の充実</p> <p>①ユニバーサルデザインによる居心地のいい居場所ある学校づくりをめざして校内研究・研修を充実させ、南大沢小スタンダードをつくる。1年次（学ぶ）2・3年次（試みる・確かめる）4年次（知らせる）を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶特別支援教育委員会に学校コーディネーターの特別支援教育担当を参加させ、サポーターや学生ボランティアとの連絡・調整、保護者対応などを連携強化に努める。 ▶特別支援教育委員会を中心に特別支援教育研修会や情報交換を行い、特別支援教育についての理解を深める。 ▶中休み・昼休みの児童の実態を把握し、心のよりどころになる居場所（南小ルームなど）を意図的に設置し、サポーターや学生ボランティアを活用し、安全安心な場所に努める。 ▶地域運営学校で実施する「ミニ懇談会」「しゃべってみよう」などを活用し、特別支援教育についての理解を保護者や地域住民への啓発に努める。 <p>②児童の実態に即した意図的、計画的な実践を行い、在籍校や保護者のみずき学級アンケートで「…効果的な指導を行っている」の肯定的評価80%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶在籍校と同じ環境での体育的授業を実施し、確かな運動量を確保に努める。 ▶みずき学級・保護者・関係機関との連携に努め、在籍校や保護者のみずき学級アンケートで「保護者との連携を図り…」の肯定的評価を80%以上にする。 	

<p>▶関連機関との協力・連携 連絡ファイル、指導報告、個別面談・相談、授業参観、在籍校訪問、面談報告書作成</p> <p>(5)国際理解教育の推進 ▶ALT やボランティアを活用した外国語活動の充実を図る。 ▶連携を図る…南大沢中学校、首都東京大学、明星大学</p> <p>(6)情報教育の充実 ▶児童にパソコンリテラシーを身に付けさせる。▶インターネットを活用した調べ学習の充実▶情報モラル</p>	<p>▶在籍校や保護者のみずき学級アンケートで「在籍校での適応に役立っている」の肯定的を90%以上にする。</p> <p>(5)ALTやボランティア等の活用や南大沢中学校などと連携をして外国語活動の充実を努める。</p> <p>(6)子供の実態を把握し、年間指導計画に基づく情報モラルに関する指導を小中一貫教育資料や啓発用DVDを活用して実施する。</p>	
---	--	--

2. 広い視野を持ち、温かい人間関係を作れる豊かな心を育む教育

<p>(1)『心の教育』の充実 ▶道徳教育を推進する。 ・仲よく助け合う授業 ・道徳授業地区公開講座(9月27日) ・異年齢集団活動の充実 ・多様な専門家や社会との交流 ▶情操教育を充実させる。 ・全校朝会 ・児童集会(音楽、ゲーム等)</p> <p>(2)学校図書館機能の充実 ▶朝読書の推進 ▶学校図書館を整備する。 ・図書ボランティア ・読み聞かせの会 ・学校図書館サポーターの活用と整備</p> <p>(3)感動的な活動体験～感動と充実～ ▶本物と出会う。 ・地域を生かした豊かな体験 ・多様な専門家や社会との交流 ・保幼小中の連携を強化 ▶芸術教育を充実させる。 ・音楽集会(月一回) ・展覧会</p> <p>(4)スクールカウンセラーの活用 ▶児童へのカウンセリング▶教職員へのアドバイス▶教育相談に関する研修 ▶保護者との相談▶関係機関・学外専門機関との連携</p>	<p>(1)あいさつで「認め合う」関係を、話し合い活動で「高め合う」関係を築くために意図的・計画的な実践を行う。 ▶道徳授業地区公開講座を実施する。 ▶固定的な人間関係を「集会」などの多様な異年齢集団活動に取り組み、充実させ、温かい人間関係を育む。</p> <p>(2)図書ボランティアを活用し、読み聞かせや朝読書週間を計画的に実施する。 ▶学校図書館サポーターを活用し、図書室の整備やデータベース化した図書の有効活用に努める。</p> <p>(3)「温かい保護でなく汗を流し、泥にまみれる試練の体験」「受け身だけでなく挑戦する心を育てる体験」などいろいろな苦しい体験を通じて、子供が本当の自分を知り、自立心や他者への思いやり、命の大切さなどを育む。 ▶日々の実践、連携、協働などを結集した音楽集会や展覧会にする。</p> <p>(4)スクールカウンセラーを活用して学校の組織的な対応と教育相談体制の充実を図っていく。</p>	
--	---	--

3. 地域とともに歩む教育

<p>(1)小中一貫教育の推進 ・小中一貫教育の日 5月1日、10月2日、2月26日 ・小中一貫教育の周知 ・保幼小連携 学期毎の交流、学校見学、情報交換</p> <p>(2)地域運営学校 ・学校運営協議会内容の周知 ・地域や保護者の声を生かす</p>	<p>(1)小中一貫教育推進委員会を年3回実施し、計画的な小中一貫教育を行い、学校評議員・保護者の学校教育に関するアンケートで「小中一貫教育について知っている」の肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>(2)「わかる」「ひろめる」「つなぐ」を地域運営学校の基本方針にし、「ミニ懇談会」「しゃべってみよう」「広報活動」などを行い、子</p>	
--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を取り入れる ・地域行事への参加 ・保幼小中連携の強化 ・仮称コミュニティールーム設置準備 <p>(3)学校公開の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日 (6月15・19日) ・学校説明会 (6月15・19日) ・保護者会 ・授業参観 ・道徳地区公開講座 (9月27日) ・こどもまつり (10月12日) ・その他、学校行事 <p>(4)外部評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育アンケート (年2回実施) 教育活動や教育課程に生かす ・学校評議員会 (毎学期1回) <p>(5)広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの作成と運営 ・学校だよりの発行、公開 ・学年だよりの発行、公開 ・専科だよりの発行、公開 ・保健だよりの発行、公開 ・給食だよりの発行、公開 <p>(6)人材バンクの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー ・安全・図書・学生ボランティア ・地域の人材発掘 <p>(7)保護者との協力 (共育・協育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉全校保護者会 (4月15日) ・学校保健委員会の実施 (10月17日) ・みなみ会活動・地域行事等への教職員の参加 ・セーフティ教室 <p>(8)地域の関係機関・団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の積極的な開放 ・青少年対策委員会 ・防犯協会 ・自治組織 (総会、防災訓練) <p>(9)創立30周年に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織づくり ・式典 ・記念誌 	<p>ども像の共有化を図り、学校評議員・保護者の学校教育に関するアンケートで「地域運営学校としての役割を…」の肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>▶子供と大人が、大人と大人が触れ合う場としてのコミュニティールーム設置準備に努める。</p> <p>(3)教育活動を知らせ、保護者や地域と力を合わせて子供たちの教育に取り組む姿を公開し、「信頼」される学校づくりに努める。また、日々が学校公開である意識を持って授業に取り組む。</p> <p>(4)7、12月に教育アンケートを実施し、教育活動や教育課程に生かす。</p> <p>(5)定期的に発行や更新し、教育活動を知らせ、学校運営協議会委員・学校評議員・保護者の学校教育に関するアンケートで「適切な情報を提供している」の肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>(6)学校コーディネーター (地域、特別支援)と連携し、人材バンクの活用に努め、多様な教育活動を行う。</p> <p>(7)情報の共有化を図り、子供を複数の目で見る体制を確立する。また、みなみ会や地域行事への教職員の参加数を増やし、相互の信頼関係を高める工夫をする。</p> <p>(8)学校は市民の財産という意識を持って開放を行う。また、ミニ懇談会などを開催し、地域や学校の情報を共有化するように努める。</p> <p>(9)保護者・地域の皆様ともに祝う30周年行事の企画を行う。</p>
--	--

II 学校教育の管理

今年度の重点と方策	検 証	結果と改善
1. マネジメント・サイクルを生かした計画的な指導、教育課程の管理に努める		
<p>(1)教育課程の管理</p> <p>▶P lan (計画) D o (実施) C heck (評価) A ction (改善) 年間指導計画→学期指導計画→月指導計画→週案</p> <p>▶週案の提出 ▶時数の確保</p> <p>(2)計画的な授業観察</p> <p>▶人事考課制度による授業観察</p>	<p>(1)PDCAのマネジメント・サイクルを生かした教育課程編成に努め、計画的な指導を実施するためにも週案提出100%</p> <p>(2)授業観察を日常的に行い、授業のよさや課題、そして児童の実態を共有する。</p>	

2. 児童の情報の共有化を図り、信頼される人間関係の構築に努める		
<p>(1)信頼される人間関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶子供の悩みや不安を受け止めた対応 ▶自立や社会性の育成 ▶教育相談日 ▶事例研究会 ▶スクールカウンセラーの活用 <p>(2)危機管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶防災計画・訓練（地域との連携） ▶避難訓練 ▶集団下校指導・安全確保 ▶セーフティ教室の実施（10月15日） 	<p>(1)関係機関との連携をし、一人ひとりの応じたきめ細かな指導を行うとともに週1回の生活指導朝会の充実と情報の共有化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶スクールカウンセラーを活用した教育相談体制をつくり、子供一人ひとりに応じた指導を行う。 <p>(2)市防災計画（改定）などを踏まえ、地域と連携した防災計画・訓練を行う。また、看護当番制による児童の安全確保に努め。</p>	
3. たくましい体と心を育む健康づくりを推進する		
<p>(1)健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶健康指導 6月10日、10月7日、1月20日 ▶栄養指導 <p>(2)食の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶食育教育の推進 ▶食物アレルギーの対応 	<p>(1)年3回養護教諭による「姿勢」「眼」「体の成長と栄養」の健康に関する話を実施し、健康づくりに努める。</p> <p>(2)食物アレルギー対応が必要な児童の把握に努め、教職員が積極的に連携・協力して対応する。</p>	

Ⅲ 所属職員の指導・管理

今年度の重点と方策	検 証	結果と改善
1. OJTを基本として、教育公務員としての常識と高い資質・能力を啓発により身に付ける		
<p>(1)情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶OJTを計画的に実施、充実、検証 ▶報告・連絡・相談の徹底 ▶校長室は広聴室 	<p>(1)152名の子供のためによき支援者でありたい。そのためにも情報の共有化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶運営委員会を行い、アンケートの分析や学 	

Ⅳ 施設・事務の管理

今年度の重点と方策	検 証	結果と改善
1. 計画的かつ効果的に予算の活用を図り、学校環境を整える		
<p>(1)美化・整備・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の整備 ・教室などの整備 ・掲示物の工夫 ・草花の栽培 <p>(2)効率的・計画的の執行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な予算計画と執行 ・起案による意思決定 	<p>(1)施設安全点検や校区安全点検を計画的に実施する。また、環境マネジメントシステムハンドブックを活用し、省エネ・省資源などに取り組む。</p> <p>(2)アイデアと努力で少ない予算を有効活用に努める。</p>	